

大正～昭和、そして平成。 あの時代のヒーローの夢とロマンにふれよう!

展示車両

キハ48000形 (キハ48036) 3等ディーゼル動車



昭和30年以降に製造されたディーゼル動車の標準形となる車両。初の液体式変速機の採用や前面貫通扉、半室運転台などが特徴。キハ17形式の両運転台化したもの。

オハフ33形 (オハフ33 115) 3等緩急車



昭和14年から製造された3等客車のオハ35形に車掌室を取り付けた車両。当時は窓下に3等を表す赤帯を付けていた。
旧車号:スハフ34834号 (34720形)

ED11形 (ED11 2) 直流電気機関車



大正12年に、サンプルとしてアメリカから輸入された貨物用電気機関車。箱型の車体や「田」の字型の窓に特徴がある。

オハ35形 (オハ35206) 3等車



昭和14年から製造された代表的な戦前製の3等客車。初めて窓の幅が1000mmと広くなり、室内が明るいと評判になった。

スニ30形 (スニ30 95) 荷物車



昭和2年から7年にかけて製造された最初の鋼製客車オハ31形のグループの荷物車。全長17mで屋根は二重屋根構造。

マイネ40形 (マイネ407) 1等寝台車



昭和23年に新しく作られた1等寝台車。2人用個室と日本初のブルマン式寝台がある。現在のA寝台の源流とも言える。

クモハ12形 (クモハ12054) 直流制御電動車



首都圏の中央・東北両線の電車運転区間拡大に伴い、昭和6年に新しく製造された車両。車体は全長17mで丸屋根構造。

オロネ10形 (オロネ10 27) 2等寝台車



昭和30年から製造された10系軽量客車のグループで、急行用の2等寝台車。その後の車両軽量化の基礎を築いた車両。

モハ52形 (モハ52004) 直流制御電動車



昭和12年、京都・大阪間の電化に際して増備された車両。京都・大阪間を36分で走破したという戦前の代表的な高速電車。

ED62形 (ED62 14) 直流電気機関車



昭和33年～34年に支線区の客貨両用電気機関車として製造。小型だが力があることから「アトム機関車」と呼ばれ親しまれていた。